



学校だより

のびるかみっ子～“元気”があれば何でもできる!!～

上小岩



令和8年 1月 8日
NO.10
江戸川区立上小岩小学校
校長 宮本 知司

何でもウマくいく “飛躍の午(うま)年”に!

校長 宮本 知司



新たな年、令和8(丙午)年が明けました。「丙午(ひのえうま)」は、動きの俊敏な馬からくる「飛躍や前進」ということに加え「丙(火の兄)」なので万物に光や熱を与える太陽のエネルギーももつという意味も加わり、「明るさ」「活力」「情熱」をもつ「活気と変化の象徴とされる年」と言われています。昨年まで、校舎建設の遅れや職員の不足など混迷の続いた本校にとっては、元気いっぱい“新たなスタートラインに立つ”、そんな気持ちの新春です。正式に決まった建築業者による「新校舎の建築」も、ついにスタートする年でもあり、2年後の新校舎竣工、6年後の開校100周年に向け、駿馬のように大きく大きく飛躍する今年の上小岩小学校であります。

昨年大きな話題となったことの一つに、日本で初めて開催された「東京2025デフリンピック」がありました。記念すべき100周年目の大会ということもあり大きな話題となりましたが、本校5年生も「デフバスケットボール競技」の応援に参加できる機会を得、大田区総合体育館に出かけました。すぐ目の前で繰り広げられる熱戦に手や身体の動き、そして表情でたくさんの応援の気持ちを届け、応援席の前を通る選手に笑顔のハイタッチを送るなど、国際親善の大役も果たせた子供たちです。



日本の手話言語をもとに考えられたという「サインエール」(両手を顔の横でひらひらさせる拍手、両手を前に動かす「行け」など)は、テレビの放映時などでも紹介されたので、ご存じの方も多いことでしょう。子供たちも事前に教室で身に付けたそのエールを楽しそうに使い、また会場のあちらこちらで手話による会話をを行うボランティアや観客の姿にも接しました。23区で最も外国籍の方が多く住む私たちの江戸川区ですが、国籍や言語の違いだけでなく、「様々な人とともに暮らしているのがこの社会である」という『共生社会の意識』も、自然ともつことができたに違いありません。東京都教育委員会より貴重な機会をいただけたのは有難いことでした。

昨年12月は、「かみっ子の良さを改めて実感する」、そんな場がたくさんありました。たくさんの保護者・地域の皆様においでいただいた『かみっ子芸術祭』では、日頃の図工や音楽、家庭科の学習の成果を見ていただくだけでなく、子供たちの生き生きとした学校生活の様子も感じ取っていただけたことでしょう。作品の製作に向かう楽しくも真剣な姿、休み時間や放課後にも楽器の練習に向かう姿など、かみっ子の真面目さと素直さが完成した作品の中にはたくさん込められていました。

また、担任として直接の関わりをもった5年生の子供たちからは、日々明るさと元気をもらい続けました。子供たちの「素直な心」に間近で触れることで、私自身教師という職を志した頃の“初心”を思い起こすことのできる貴重な3週間となりました。(体は、毎日本当にくたくたでしたが…)

区教育委員会の多大なお力添えもあり、3学期からは何とか14学級のすべてで担任が揃います。子供たちのもつ真っ直ぐな心をさらに伸ばし、大いなる飛躍の年にしたいと願う新たな年の始まりです。

「行く1月、逃げる2月、去る3月」と、大変に短い3学期ですが、引き続き本校の教育活動へのお支えをどうぞよろしくお願ひいたします。

